

教育活動	●学力の向上	校内研究の充実と深化	・校内研を通して学習過程の在り方を明確にする。	・表現力の向上を目指した公開授業・授業研究会を行う。 ・全校スピーチにおける指導やプレゼンタイムの活用を充実させ、技能の向上とともに意欲喚起を図る。 ・小学生新聞を購読したり、日本地図や世界地図を掲示したり、国語辞典を常時置いたり、「調べ隊」の増える掲示をしたりと、環境面で刺激的サポートを講じる。	研究主任 (五反田)	A	・「いつでもどこでもだれとでも」のめあてをもって学校生活全般を送れた。 ・全校スピーチでも、聞き手・話し手の技術向上を意識して取り組めた。 ・三瀬小・北山中・巨勢小に目的をもって交流に臨み、自分の意見を堂々と発言していた。	○児童のアンケート結果から、音声言語面で自分やまわりの成長に満足している様子が伺えた。また、より向上したいという意識も見られた。 ○小学生新聞の閲覧コーナーを設け、プレゼンタイムの項目に入れたり、給食時放送を入れたり、待ち時間に閲覧させたりしたことで、徐々にではあるが、時事的な問題に関心をもち児童の間で話題が出るようになってきた。今後も知識基盤社会に対応できるように、社会常識や情報社会に明るい児童の育成に、より一層力をいれていきたい。
		個に応じたきめ細かな指導の充実	・「井原山チャレンジ」で全員90点以上をめざす。	・国語タイムを有効に活用し、繰り返し学習を行い、学習内容の定着を図る。 ・毎日の家庭学習についても個に応じた課題を出し、日常的に丁寧な対応を行う。加えて、自主学習を奨励し、手立てを講じる。 ・県の学習状況調査やCRT学力検査の結果の考察を行い、指導に生かす。	学力向上コーディネーター (五反田) (江口)	A	・井原山チャレンジを算数2回漢字2回行った。児童は、一生懸命に取り組む一回で或いは、再テストをして全員が合格した。 また、CRTテストの結果は、個人差があるものの概ね良好であった。分析結果の考察を行い指導に生かしたい。	◆全体の傾向というより、個人の資質に大きく左右される部分が多いが、全体の雰囲気を作っていくことで、「学習に取り組む姿勢」を作っていくかなければならない。 ◆過去問に触れるなど、テストの問題自体に慣れさせるとともに、理解が高まるような個に応じた教材研究、教材作成をしていく必要がある。 ◆来年度はパフォーマンス評価を取り入れながら、算数科を中心に学力をつけ、自信につなげたい。
		読書活動の推進	・全員が100冊以上(おすすめの本を含む)読書量を目指す。 ・読書のジャンルを広げ、質の向上をめざす。	・毎週月曜日に朝読書・読み語り(ボランティア)を実施する。 ・多読者の紹介(図書館だより)・表彰をする。 ・図書館祭り・各図書館系募集等を利用して全分類の図書の貸し出しができるような取り組みを行う。 ・学年に応じた「おすすめの本」を紹介し、読書の質の向上を図る。	図書主任 図書館司書 (江口・姉川)	A	・目標である100冊読書を全児童が達成できた。 ・学年に応じた「おすすめの30冊」を約40%の児童が達成。 ・ジャンルが少しずつ広がってきたが、まだ個人差が見受けられる。 ・「ほっこりタイム」、放送による読み聞かせ、児童によるおすすめの本の紹介の工夫などで読書のジャンルが広がってきた。	○今年度は、ボランティアグループによる低学年の読み語りに加え、中・高学年への「ほっこりタイム」を設けたことでいろいろな分野の本を紹介してもらうなど本と出会う機会が増えた。また、質の向上をめざし学年に応じて選定した「おすすめの本30冊」を達成した児童も全体的に増えてきた。 ◆ジャンルの幅が広がってきているがまだ個人差が見受けられる。来年度も多くの本と出会う機会を作ったり、興味を持たせる工夫や働きかけを行っていきたい。
●ICT活用教育の推進	電子黒板やデジタル教材の活用	・デジタル教科書等を利用した教材提示を行い、児童の興味関心や理解を高める授業を実践する。 ・全学年で情報モラルの授業を実践する。	・ICT活用教育に係る職員研修を実施する。 ・情報モラルに係る研修会・講話を実施する。	情報教育担当 (吉村)	A	・ICT活用教育の職員研修を実施し、全職員が活用する機会が増えた。 ・情報モラルの授業を中学年以上で実践することができた。	○ICT活用教育の職員研修を実施し、全職員が毎月1回以上は活用した授業を行うことができた。 ◆ICT活用用の年間計画と職員研修の内容を見直し、より学習の効果が上がるような研修会と授業実践を行いたい。 ◆情報モラル教育については、各学年の発達段階に応じた内容や、他教科との関連を明確にして、年間計画を立てていきたい。	
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・家庭学習の習慣化のために、家庭と連携して、生活・音読点検を徹底する。。	・職員・児童に周知徹底し、授業・帰りの会等で全職員で指導し、あらゆる機会に「 まっすぐ挙手・はっきり「はい」と返事・すっと起立の3点 」についての評価を行う。 ・音読カードを配布し、毎日点検し、表現力の向上を図る。	低学年担任 (角)	A	・朝の会・帰りの会やふだんの授業で3点について指導していく中で、定着してきた。 ・音読カードを毎日点検したり、読書の習慣を定着させたりすることで、表現力が高まった。	○全校スピーチやプレゼンタイムなど、全校の前で発表する場を多く持つことで、発表の仕方が定着してきた。 ○音読カードを毎日点検したり、がんばりを褒めていくことで、自信を持って発表できるようになった。 ◆話すことには意欲的だが、聞くことに対して、さらに意識してできるように、指導していきたい。
	○幼保小中連携	中山間地域の近隣の保小中との連携の推進	・近隣の保小中それぞれと3回以上の連携に関する活動を行う。 ・総合的な学習・生活科との関連を図り、郷土の良さを伝えようとする意欲を育てる。	・北部保育園と行事を中心に交流活動を年3回以上行う。 ・北山中、三瀬中と年2回以上の教育相談活動を行う。 ・鬼火小屋作りや鬼火焚きなどの地域の伝統的な行事を取り上げ近隣の学校に向けてアピールする。	低学年担任 (角)	A	・連携会議や保育参観や打ち合わせなど幼保小連携を密にすることができた。 ・北山中・三瀬中との行事に数回参加して、交流も深めることができた。 ・三瀬小の6年生や北部保育園を鬼火小屋遊びに招待し、郷土の良さをアピールすることができた。。	○北部保育園との連絡協議会や保育参観をもつことができた。三瀬保育園の保育参観や本校での授業参観に来ていただき、三瀬保育園との交流連携も深まった。 ○鬼火小屋遊びに向けて、意欲的に取り組み、当日も楽しく過ごすことができた。上級生としての意欲が高まった。 ○今年度は北山中からも鬼火小屋遊びに参加していただき、さらに交流が深まった。

② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	●健康・体づくり	全校剣道の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道を通して自分の体力づくりに関心をもたせ、進んで運動をする態度を育てる。 ・剣道を通して礼儀正しい態度を身に着けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道ノートの内容や利用の仕方を工夫し、自分の活動(練習)について振り返らせる。 ・生活の場で礼儀正しい態度で過ごせたことを賞賛する。 	剣道担当 (吉村・角)	<ul style="list-style-type: none"> A ・多くの児童が意欲的に剣道の稽古に取り組むことができた。 ・剣道ノートの活用が不十分だった。 ・礼儀については、公の場での礼儀が身に着いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの児童が意欲的に剣道の稽古に取り組み、1年間やり通すことができた。 ◆運動に対しての意欲や意識に個人差があるので、どの児童も楽しく取り組めるような活動内容を計画していきたい。 ◆活動の自己評価をする方法を工夫することが必要である。 ◆生活のめあて(月目標)と関連させながら、普段の生活の場でも指導をしていく必要がある。
		望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の内容・重要性について、学年に応じて児童に考えさせ、実践させる。 ・楽しい会食を工夫できる児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や給食週間の取組を通して指導する。 ・全職員による給食指導を行う。高学年が家庭科で学習した会食の仕方等、給食時間を利用して全児童に広める。 	食育担当 (深川)	<ul style="list-style-type: none"> A ・全校朝食では朝食の大切さを伝える保健指導を行ったり、給食週間では給食を感謝する機会をつくった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食喫食率100%を維持できたことは成果である。 ◆しかし、給食時間の際の指導が十分でなかったところがあった。そのため今後はもっと食事のマナーを意識した給食指導を行うようにしていく必要がある。
	○生徒指導	きめ細かな個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な行動様式の定着を図り、気になる子どもに対して全職員で支援する。 ・安全教育の指導の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導・教育相談連絡会を毎月開き、気になる子どもに対して、全職員共通理解の上で、きめ細かに対応する。 ・山村留学生の心のケアを、実親・里親・出身校との連携を密にとりながら行う。(週1回の里親への定期情報提供・実親宅への家庭訪問の実施・出身校との情報交換) ・下校時に防犯ブザー・たすき・名札の点検を行うと共に、交通事故や危険な遊びなどに注意するように指導していく。 	生徒指導担当 (角)	<ul style="list-style-type: none"> A ・毎月の生徒指導・教育相談連絡会で共通理解を図り、組織的な体制で取り組むことができた。 ・実親への週1回の学級だよりや学校便り等の通信を行うだけでなく、電話やメールで連絡を取り合うなど、きめ細かに対応を心がけることができた。 ・一年間通しての生活目標を設定し、学期ごとに自己評価させ点検することで、意識づけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員室の会話の中で日常的に、児童の様子について話題にし、共通理解を深めることができた。 ○保護者や地域の方との会合の中でも学校の取り組みについて説明し、理解を求めた。 ○週1回の学級便りや学校便り等を渡すことによって、実親の方によく学校に来ていただいた。実親・里親が来校されることで、よりきめ細かな対応を心がけることにもなった。 ○教育相談の専門的な諸機関との連携を図り、計画的に実施することにより、児童理解を深めることができた。 ◆今後さらに、地域・保護者の連携を深め、学校目標や指導方針の徹底を図っていきたい。
③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校となる。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策		評価及びその理由	成果と課題
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童・保護者の周知率を9割以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、全校集会等で説明する。 ・学校便り、山村留学総会・育友会総会などで周知し、具体的取り組みを説明する。 ・地域参加の各行事ごとに周知を図る。 	校長	<ul style="list-style-type: none"> B ・各会議等での説明を行うことができた。 ・保護者アンケート・職員アンケートの結果からおおむね周知されていることが窺える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の保護者会等で学校目標や児童の様子について話し合い、学校経営方針について理解していただいている。 ◆地域の方への周知については十分とは言えない。学校便りを始め、学校行事への誘いや地域行事への参加などの機会に、更に周知・理解を求めていく方策を考えていく必要がある。
	○開かれた学校作り	開かれた学校作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学級だより、学校だより、学校ホームページ等による情報発信を拡大する。 ・保護者だけでなく、地域の方も含めた学校行事を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りは、保護者・山村留学生の实親・地域全戸に配布する。 ・実親には、学級便りや学校での子どもの様子が分かる写真等も一緒に送る。 ・「総合的な学習の時間」の内容・ボランティア活動の内容等を見直し、児童のいない地区へも積極的に職員・児童が出かけ、連携を図る。 ・学校の活動をアピールし、地域の方の学校行事への参加を促す。 	校長 教頭	<ul style="list-style-type: none"> B ・学校便りは全て配達することができた。 ・総合的な学習では、地域や山村留学を題材とした取組ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便りは地域の全世帯へ、学級便りは保護者・実親・里親に定期的に配布・配送し、学校での様子を知らせることができた。 ○「総合的な学習の時間」では地域や山村留学について学習し、福岡市役所で広報活動を行ったり、「ふるさと文化祭」で発表したりと成果を上げることができた。 ◆以前から続いている全世帯への「餅配り」や地域に出かけての新たな活動(環境美化のポスター貼りなど)も行うことはできたが、児童のいない地区へのアピールを更に工夫していく必要がある。

教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・年1回以上、全学級でふれあい道徳の授業公開を行う。	・生命尊重・家族愛を中心とした価値項目で授業を実践し、よりよい生き方を保護者と一緒に考えさせる。	道徳担当 (江口)	B	・全学級 フリー参観デーなどの授業参観で生命尊重・家族愛を中心とした内容の授業を保護者に公開した。	○6月のフリー参観では、命について考える講演を親子で聞いた。また、授業参観や11月のフリー参観では生命尊重や家族愛に関する内容で授業公開した。 ◆参観した保護者に内容を知らせ、その後の家庭で話題にあがるなど親子で話すきっかけ作りとしても機会を増やしていきたい。
特定課題	○山村留学の継続・発展	山村留学の継続・発展	・保護者・地域と協力し山村留学の継続・発展ができる学校をめざす。	・山村留学実行委員会と協力して、山村留学のできる学校としてのよさをアピールする。 ・地域に根ざした学校として様々な行事を地域の方と一体になって実施する。 ・校内研究ともリンクし、「総合的な学習の時間」等を活用し、地域行事を児童主体型で行う。	山村留学担当 (五反田) (吉村)	A	・年度当初に年間計画で計画していたことは、地域と協力し合い、無事に執り行うことができた。 ・短期留学募集時の福岡市役所でのプレゼンで、北山東部小の良さを児童の手でアピールできた。 ・短期留学希望者43名、長期留学希望者5名と、予定数を越えての応募があり、十分にアピールできた。 ・今年3名の長期留學生を受け入れたが、里親・実親・実行委員会・地域と連携を取りながら、無事一年間学校生活を送らせることができた。	○地域と協力し合い、児童数を増やして、「6学年」を確保することができた。 ◆行事の内容が伝統的で固定化したもの・地域の人の協力なしではできないもの等が多く、児童主体型で参画することがなかなか難しい。 ◆ゲレンデの雪面状態が悪く、直前になってスキー教室が開催できなかったことが残念だった。 ○山村留学制度の存続に向け、11月に保護者会をもった。保護者数が減少する中、また、長年地元に住んでいた保護者が減少する中、継続していくことの難しさを抱えているが、みんなで協力していくことを確認できた。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策		評価及びその理由	成果と課題	
学校運営	○教員の資質向上	教職員の服務規律の保持に対する意識向上	教職員の服務規律の保持に対する意識を向上する。	・職員会議や連絡会で、毎回服務規律について話題を提示し、職員の意識を高める。 ・通知文は、全員に配布し、必ず管理職より補足説明をする。 ・日常的に事件事故の情報提供を行う。	教頭	A	・職員会議の前に「職員の誓い」を唱和した。 ・職員連絡会・職員会議において服務規律の保持関係について話すことができた。 ・通知文については回覧し、必要に応じて印刷・配布して具体的に指導することができた。	○日常的な会話においても機会あるごとに服務規律の保持について話題にし、意識付けすることができた。 ○新聞記事等から関連記事について職員に情報提供を随時行い、意識を高めることができた。 ◆報告・連絡・相談について「これくらいは・・」という意識から不十分になってしまうこともあった。更に高い意識を持てるよう指導していく必要がある。
	○危機管理	職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実	危機管理マニュアルをもとに不審者侵入を始めとする避難訓練で全員が自分の役割を遂行する。	・本校の実態に応じた危機管理マニュアルを作成する。 ・年3回以上の避難訓練を行う。 ・避難訓練の1回は不審者侵入に対するものにする。	教頭 角	B	・危機管理マニュアルを作成した。 ・警察等の協力を得て不審者避難訓練を実施した。 ・消防署の協力を得ての地震・火災避難を実施し、反省を元に、予告なしの避難訓練を行うことができた。	○校内の危機管理マニュアルの作成だけでなく、通学路の点検を行った後の整備要求、スクールゾーンの設定など児童の安全に係る活動ができた。 ◆職員および児童の危機意識については必ずしも高いとは言えない。様々な場面で想定した訓練の充実や研修を行っていく必要がある。
教育活動	●心の教育	人権教育の充実	・全職員で取り組み、児童の人権意識を高める。	・月に1回人権教室の実施(学期に1回、校長・教頭・養護教諭も行う。) ・12月の全校人権集会の実施。 ・月一回の「心のアンケート」を活用し、各児童の実態に応じたより具体的な指導を行う。	人権教育担当 (江口)	B	・毎月人権教室(学期に1回、校長・教頭・養護教諭も行う。)や12月の人権集会(全校)を実施した。 ・「心のアンケート」により児童の様子を把握したり、職員間で情報交換をしたりして支援や指導を行うことができた。	○毎月の人権教室(学期に1回校長、教頭、養護教諭も行う)に加え、各担任等の全校人権教室や平和集会(全校)を行うことができた。 ◆毎年、山村留学の児童が加わるため児童の生活環境が変化する。地元の児童も留學生もお互いを思いやり、協力し合って楽しく学校生活が送れるよう今後も人権教育の充実を図っていきたい。

評価結果を踏まえて、「何ができて、何ができなかったのか」を考える
特に、C、D評価はもとより、A、B評価も、「評価項目として適切だったのか」は吟味の余地がある



6 総合評価

全般的に良好に教育活動を推進できたと考え、地域密着型の学校ではあるが、「開かれた学校」という面では、ややアピール不足など課題が残る。総括すると下記のような成果と課題があげられる。

① あらゆる場面で自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。

・全教員が公開授業・授業研究会を行うことにより、児童に確かな学力をつけるための研鑽を積むことができた。また、児童の言語活動や多様性を尊重した授業の構築を進めることができた。
・授業・全校スピーチ・プレゼンタイム・交流学習等々の場で、「いつでも どこでも だれとでも」を合い言葉に、常に自己表現を意識させる活動を行うことができ、児童に力をつけることができた。

・小学生新聞の閲覧コーナーの設置など工夫し、徐々にではあるが、時事的な問題に関心をもち児童の間で話題が出るようになってきた。今後も知識基盤社会に対応できるよう、社会常識や情報社会に明るい児童の育成に、より一層力をいれていきたい。

・学年末に行う「井原山チャレンジ」・個別の指導等を通して基礎的・基本的な学力の定着については一定の成果が見られた。しかし、活用力・応用力といった面で力を伸ばすためには更に工夫が必要である。

・全児童100冊以上の読書達成・ICTを活用した学習の推進・他の小学校との交流学習など学力向上のための取り組みを計画的に行うことができた。

② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。

・保護者との連携は今年度も十分になされ、基本的な生活習慣の確立についての共通理解を得ることができている。

・全校児童が意欲的に剣道に取り組み、心身の成長を図ることができた。

・教育相談について計画的に外部から講師を招き研修を行うことができた。児童についての共通認識を持つことができ、全般的には職員による一致した指導を行うこともできた。しかし、個々の場面での指導については更に職員間の共通理解を図ることも必要である。

③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校となる。

・地域連携について、今年度も生活科「総合的な学習の時間」を利用して児童が地域へ出かけて地域の良さを味わう活動を多く設定することができたことは一定評価できると考える。更に職員が積極的に地域へ働きかけるような取組について工夫していく必要がある。

・「総合的な学習の時間」の内容・ボランティア活動の内容等を見直し、児童のいない地区へも積極的に職員・児童が出かけ、連携を図ることがあまりできなかった。

④ その他

・職員および児童の危機意識については必ずしも高いとは言えない。様々な場面を想定した訓練の充実や研修だけでなく、常に危機意識を持った行動を心がけていく必要がある。

↓「できなかった」点について、次年度以降の具体策を検討する
↓「できなかった」こと自体よりも、改善策を見出せるかが重要である

7 来年度の改善策

◆「学力向上」に関わって、基礎的・基本的な面ではこれまでの方策を引き続き継続的にやっていく必要がある。活用力・応用力を育むためには何よりも授業の質を更に高めていくことが必要である。来年度は、「学力向上」を見据えた校内研究を進め、個々の授業について振り返り・検討・改善といったことについて職員相互が協力して取り組んでいきたい。

◆小学生新聞の活用など、今後も知識基盤社会に対応できるよう、社会常識や情報社会に明るい児童の育成に、より一層力をいれていきたい。

◆地元児童・山村留学生が共に切磋琢磨して成長していくために、児童理解を更に細やかにし、個々の場面においても共通した指導・支援が行われるように教育相談を進めていきたい。

◆「開かれた学校」を推進するため、「地域密着型の学校」の良さや学校の教育活動について、校区内を中心としてアピールを積極的に行っていきたい。

◆地域連携については、これまでの取組に加え、地域でのボランティア活動を実施していきたい。地域の方々や児童・職員との交流について更に工夫していくことが求められる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目